

県連ニュース

発行者：木原 望

TEL : 096-387-2826
FAX : 096-381-5442

オスプレイいらない！安全保障関連法廃止！ 熊本県民集会

参議院本会議で「安保関連法（戦争法）」が強行可決されて2年を迎える9月18日（日）に、自衛隊が導入するV22オスプレイ配備撤回と安全保障関連法廃止を訴える熊本県民集会が辛島公園で開催され、250人が参加しました。集会では、県内4野党の代表が連帯のあいさつをしました。その後、オスプレイ佐賀空た。佐賀県平和運動センターの古賀副議長がこれまでの運動を報告しました。また、12月の運動米共同訓練でオスプレイの夜間訓練が実施予定の山都町からは加した、市民有志の西田さんは「多くの町民が反対している。訴えました。最後に「団結ガンバロウ」で終了し、下通りパンルコ前まで、「オスプレイ配備反対」「戦争法廃止」と声を上げながらアーケードを進行しました。

県連事務局 笹原和典



川内訴訟第18回口頭弁論に参加

9月5日（火）「原発ゼロ熊本の会・川内訴訟第18回口頭弁論」に参加しました。

鹿児島市内で内科医として働く青山浩一Dr. の意見陳述と福島県民であり福島原発訴訟原告団事務局長を務める服部浩幸さんの現地からの生の声を目の前で聞き、原発について考える貴重な時間となりました。福島原発事故から6年経った今ニュースで取り上げられることが少なくなり、事故があったことでさえかき消すように次々と原発の再稼働が進んでいます。しかし、今でも約8万人の方が避難生活を余儀なくされ、不安を抱えながら生活を送られているのが現状です。また故郷に戻れず家族と離れ離れの生活、いじめや差別、補償の打ち切りなど数多くの問題が残っていると服部さんは感情を押し殺すように声を震わせながら訴えます。その言葉1つ1つに責任と重みがあり、改めてこの問題は私達1人1人が考えていかなければならない、声にしていかなければならないと強く感じました。さらに現在、隣国からミサイル飛来の脅威が連日のように報道されています。もし、これが国内の原発に落ちてしまったら・・・想像するだけで恐怖を感じます。もう一度皆さんで考える時ではないでしょうか。

菊陽病院 西4病棟 富山 将司

